分析計画書（案） 修正箇所一覧表

資料－4

NO	前回資料のページ	前回資料の内容	今回資料のページ	今回資料の内容
1	表紙	「揖保川水系河川整備計画段階における環境影響分析分析計画書」	表紙	表紙のタイトルを「揖保川水系河川整備計画段階における環境等影響分析〔環境・社会・経済・技術面での影響分析〕　分析計画書」
2	―	―	まえがき	分析計画書（案）の冒頭に、”まえがき”を追加し、「分析計画書」、「分析報告書」の定義及び「河川整備計画」との関係を説明する文章を添付しました。
3	―	―	1-1	第1章を追加しました。 第1章として”事業者”に関する記述を追加しました。**第22回委員会資料より章立てが１章ずれています。**
4	2-5	（「土地分類図」（（財）日本地図センター、昭和49年）を基に記載）	3-5	「兵庫の地質」（兵庫県まちづくり技術センター、平成15年）を基に記載内容を修正しました。
5	2-6	（「土地分類図」（（財）日本地図センター、昭和49年）を基に記載）	3-6	流域地質図を、「兵庫の地質」（兵庫県まちづくり技術センター、平成15年）に示されている地質図に差し替えました。
6	2-7,26,27,47,53	（図が不鮮明）	3-7,27～29,48,48,55	不鮮明な図を鮮明な図に差し替えました。
7	2-20	下から7行目「栗栖川合流点から・・・」	3-20	下から7行目「引原川合流点から・・・」
8	2-27	―	3-26	以下の観点から、揖保川の植生の縦断方向の分布特性について記述しました。 【河川に特有な植生】 ①河川を代表する広域の自然植生 ②河川に特有の小規模な自然植生 【その他の植生】 ①その他の植生 ②人工的に整備された立地
9	2-29～35	（表中の項目）「環境区分」及び「群落」、「主な植物」及び「注目種」	3-31～34	（表中の項目）「代表的な環境及び植物群落」「主な確認種」に修正しました。
10	2-29～35	―	3-31～34	横断方向の環境傾度（河原、低水敷、高水敷）ごとに、河川に特有な自然植生の中から「群落」を選び、「主な植物」については「群落」を識別する種を示しました。 また、水域と陸域で分かれていた表を、一つにまとめました。
11	―	―	3-36,37	流域内の特徴的な歴史的景観を追加しました。
12	2-39～46	―	3-40～47	図中の「河道状況」欄に礫干潟、ワンド、たまりの位置を追記しました。
13	2-39～46	―	3-40～51	植生の縦断方向の分布特性の整理結果を環境情報図（p3-40～47）に示しました。 また、表3-14（p3-48～51）についても、分布特性の整理結果を踏まえて修正しました。
14	2-67	河口より25km付近の航空写真	3-69	河口より15km付近の航空写真に差し替え、記述を修正しました。
15	2-74	―	3-76	実績流量を記載するとともに、氾濫戻し流量を（）書きにて併記しました。
16	2-87,88	―	3-89,90	「河道への影響要因」欄中の流量を修正しました。
17	3-3～18	・多様な生物の生息・生育環境となる清流 ・アナグマをはじめとする中・大型哺乳類の生息地として機能するための横断方向の連続性がある環境 ・魚類の遡上など、生物の移動が可能となる縦断方向の連続性 ・ヤマセミ、カワガラスなどの水辺に生息する生物の生息地としての多様な生物生息空間の確保 ・大石だけでなく礫や砂を含む河床の維持、アユ等の魚類の生息に適した礫河床 ・アユの接岸に必要な浅場・干潟の海域から河口内への連続性、アユの産卵場となる河川環境と遡上降河が可能となる縦断方向の連続性 ・多様な動植物の生息・生育環境となっているワンド・たまり・瀬・淵、人工ワンドによる止水環境を好む生物の利用できる環境 ・河原性の生物を育むことのできる丸石河原 ・シルビアシジミの生息環境の保全 ・景勝地となる景観資源 ・ミゾコウジュ、カワヂシャ等の重要な湿性植物の保全、ミクリ・フトイ等の重要な湿性植物の生育環境 ・多くの生物の生息環境に利用されている水際のツルヨシ、オギ群集をはじめとする河川に特有な植物 ・温帯性の樹木を含む、明るいエノキ－ムクノキ群集で形成される河畔林 ・湧水環境を好む生物を育む湧水域、止水環境を好む生物を育む止水域 ・多様な生物を育む河口干潟環境 ・親水性の高い水辺空間の有機的なネットワーク	4-3～18	「河川の望ましい姿」を、以下のとおり①水系全体に関するテーマ、②流程の特徴に関するテーマ、③その他（重要種や特定の場所についてのテーマ）に分類して示しました。 ①水系全体に関するテーマ ・多様な生物の生息・生育環境となる清流 ・魚類等の移動が可能となる縦断方向の連続性 ・大石だけでなく礫や砂を含む河床の維持、アユ等の魚類の生息に適した礫河床 ・多くの生物の生息環境に利用されている水際のツルヨシ、オギ群集をはじめとする河川に特有な植物 ・親水性の高い水辺空間の有機的なネットワーク ②流程の特徴に関するテーマ ・アナグマをはじめとする中・大型哺乳類の生息地として機能するための横断方向の連続性がある環境 ・ヤマセミ、カワガラスなどの水辺に生息する生物の生息地としての多様な生物生息空間の確保 ・河原性の生物を育むことのできる丸石河原 ・多様な動植物の生息・生育環境となっているワンド・たまり・瀬・淵、人工ワンドによる止水環境を好む生物の利用できる環境 ・多様な生物を育む河口干潟環境 ・重要な湿性植物が生育するヨシ群落等の水際植生 ③その他（重要種や特定の場所についてのテーマ） ・景勝地となる景観資源 ・シルビアシジミの生息環境の保全 ・温帯性の樹木を含む、明るいエノキ－ムクノキ群集で形成される河畔林 ・湧水環境を好む生物を育む湧水域、止水環境を好む生物を育む止水域 ・アユの接岸に必要な浅場・干潟の海域から河口内への連続性、アユの産卵場となる河川環境と遡上降河が可能となる縦断方向の連続性
18	3-5	「魚類の遡上が可能となる縦断方向の連続性」	4-4	「魚類等の移動が可能となる縦断方向の連続性」
19	3-19～27	―	4-19～27	「流域・河川の特徴」、「現況の分析」及び「整備と保全の方向性」等の記述について、流程による違いを示すことや、場所・内容の具体的な記述などの修正を行いました。
20	4-1	―	5-1	治水に関する整備の考え方について、説明を追加記載しました。
21	4-3	―	5-4	農地面積の変遷、実取水量、許可水量のグラフを追加しました。
22	5-1	―	6-1	治水の具体的方策の考え方について、説明を追加記載するとともに、新規ダム及び遊水地の考え方を追加記載しました。
23	5-3	上から６行目「農業水利権の適正化（水利権量と必要水量の適正化）による河川の縦断的連続性の回復」	6-3	上から６行目「水利権の適正化（水利権量と需要量の比較）」
24	5-6,7	―	6-6	「トレードオフ」の解説を注記しました。
25	5-8～5-25	―	6-8～6-25	治水に考えられる案（B案～S案）について、見直しを行いました。
26	5-7	「できるだけ改変しない」「できるだけ変化させない」「できるだけ保全する」	6-7	「改変しないように努める」「変化させないように努める」「保存するように努める」 【左記のページ以外の同様箇所についても同様に修正】
27	5-7	・「河川敷内に存在する広い低茎草地をできるだけ保全する（20.6～21.2k）」 ・「湿性植物群落をできるだけ保全する（揖保川：7.0、7.4k、林田川：3.2、6.6k）」	6-7	・「中流域の高水敷に存在するオギ群集などの広い草地（特に15～18、20～26、31～32、41～45k ）を保全するように努める」 ・「多くの生物の生息環境に利用されている水際に広がるヨシ群落（5～7k）を保全するように努める」or「水際に生育するヨシ群落等の湿性植物（1～2、3～4、5～7k）を保全するように努める」 【左記のページ以外の同様箇所についても同様に修正】
28	5-7	「多くの生物の生息環境に利用されている水際のツルヨシ・オギ群落をできるだけ保全する」	6-7	「多くの生物の生息環境に利用されている水際のツルヨシ・オギ群落をはじめとする河川に特有な植物を保全するように努める」 【左記のページ以外の同様箇所についても同様に修正】
29	5-8～25	―	6-8～25	「考えられる案」の整備内容を見直しました。
30	6-1	―	7-1	・堰改築の環境要素として水温、富栄養化を選定 ・河道掘削の環境要素として湧水、地下水を選定
31	6-2	―	7-2	第3章、第4章の見直しに合わせて、表7-1(2)の「環境の保全の方向性」を修正（流程による違いや、場所・内容について具体的に記述）しました。 【左記のページ以外の同様箇所についても同様に修正】
32	―	―	7-3	「環境の『整備』の方向性」を分析対象に追加しました。
33	6-3	「景観」の選定理由欄の中の２行目「主要な眺望点及び景観資源」	7-4	「景観」の選定理由欄の中の２行目「主要な眺望点及び景観資源（自然的景観及び歴史的景観）」 【左記のページ以外の同様箇所についても同様に修正】
34	5-8～25	・各考えられる案の掘削量等数量について	6-8～25	・各考えられる案の掘削量等について数量精度を上げるために50cmピッチから20cmピッチで細かく検討するとともに、一部算出ミスを訂正したため各案の数量を修正しました。
35	―	―	7-16	社会的影響の分析項目に「④想定氾濫域の程度、⑤避難回数の程度、⑥流域のまちづくりへの影響」を、経済的影響の分析項目に「③費用便益評価」を追加しました。